

正義仁愛の精神で日本の海を守る

四面環海の日本は、海とともに発展してきました。その過程にはいつも海上保安官の努力があったことを忘れてはなりません。我が街、四日市にも海上保安部が設置されています。今回は、知られざる海上保安官の世界に肉薄。任務にかける熱い思いを聞きました。

人命救助、治安の確保 多岐にわたる海保の業務

海上保安庁の第四管区海上保安本部は、愛知県、岐阜県、三重県を管轄区域とし、その沿岸部から太平洋上約1300kmの沖合におよぶ領域を守っています。四日市海上保安部は、第四管区内において主に津市、四日市市、桑名市、いなべ市、伊賀市、鈴鹿市、名張市、亀山市、桑名郡、員弁郡、三重郡の8市3郡を管轄。伊勢湾に面した四日市海上保安部の北部沿岸には四日市の臨海工業

ですから、航路標識を設置し、これの保守・点検したり、海難防止の講習会を開いたりするなどして、未然に事故を防ぐ活動をしています」と話す、四日市海上保安部管理課長の近藤修さん。「岸壁から近い陸地に建つ工場で火災が起きた場合も、消防や警察と連携を図り、私たちが海上から消火活動にあたることもあるんです」と続けます。また、各工場の廃水検査も実施。「次世代のために青い海を残していかなければなりません。そこで、海を汚す行為に関しては厳しく取り締まります」と話しました。ほかにも、レジャーシーズン真っ只中の今は、海の事故が増えるので、監視体制を強化。海難事故防止を外部にもPRしています。「海辺で楽しい時間を過ごしていたために、海水浴場のルールは遵守していただきたいです」

持つべきは 正義仁愛の精神

四日市海上保安部は、昨年4月に新しい巡視艇「あおたき」が就役。これに「いせぎく」「さるびあ」の2隻の巡視艇と監視取締艇1隻を加え、合計4隻で警備・救難業務を遂行しています。「あおたき」はこれまで活躍していた消防船「しよりりゅう」よりもハイスピーク。25ノット以上の高速で海上を進み、消防車約8台分に相当する水を発する伸縮式放水銃4基を備えています。「あおたき」の乗船員は現在9人。船長を務めるのは白石秀毅さんです。

白石さんにはこれまで幾度か出動経験があります。海上での救助作業や消火活



①放水銃を稼働させる「あおたき」。船の全長は35メートルで、総トン数は125トン。昨年の3月21日に就役しました。②4基の放水銃は合わせて毎分1万6800リットルもの放水を実現。③市民に海との付き合い方を伝えるため、イベントも開催。④潜水士は必ずバディ(ペア)を組んで行動。映画やドラマを見て見知っている人も多いのでは。⑤昨秋、遠州灘沖で起きた船舶火災で「あおたき」が出動。7人の乗船員は全員救助されました。⑥座学講習および背浮き、身近な物(ペットボトルなど)を使用した浮力確保などの安全指導も実施しています。⑦測量結果をもとに海図が作成されます。⑧アグスタウエストランド139は、第四管区が保有するヘリコプター



地帯、南部に県の行政の中心都市である津市があります。全国各地の海上保安部が果たす役割は数多くありますが、中でも重要といえるのが人命救助です。海上において船舶の転覆や火災事故が起きると、海上保安官がただちに出勤。現場に向かいケガ人などを救い出します。事故や火災の規模が大きい場合は、特殊救難隊に応援を要請。転覆船内に潜り、要救助者を捜索したり、ヘリコプターから降下して乗組員を救うなど、より高度な技能と専門知識を駆使して人命救助にあたります。

そのほか、治安の維持、防災対策、海上交通安全などの任務があり、密漁船の検挙やテロ対策、密航者の逮捕などの業務に従事しています。日夜、海に目を光らせ地域住民が安心して暮らせるように励んでいるのです。四日市海上保安部が籍を置くエリアは工業地帯であり、沿岸には多数の工場が並んでいます。当然ながら海上交通の量も多く、一帯に運ばれる危険物の貨物量は全国で5番目の多さ。「船の出入りが多いと、海上で起きる船舶事故の可能性も上がります。」

動は緊張感を伴いますが「どんな現場であつても正義仁愛の精神で立ち向かいます」とキツパリ。続けて「救わなければならぬ命が目の前にあるならば、とにかく最善を尽くす」とも。火災の際は、積載物に引火して爆発を引き起こすこともあるので、常に「もしも」の意識も持ち合わせる事が大切で

「特に有害液体物質を積んでいる船などは、そこに引火すると、有毒ガスが発生したりもします。海上保安官は、そういった状況を頭描きながら我が身も守らなければなりません」何が起るか分からない災害現場。どんな状況にも対応できるように海上保安官たちは、訓練にも力を注いでいます。「さまざまな状況を想定して訓練は行われます。日頃の成果が現場では必ず生きてきますから、訓練もおろそかにできない重要な任務といえるでしょう」

訓練と同様、船の整備も大切。船が有事の際に不調では、救助ができません。「あおたき」には、機関長と機関士補が乗船しており、機関長がエンジンルームの整備を指示。また、船体は航海士が点検し、漏水、腐食などがないかをくまなくチェックしています。警察や消防とは違い、海上保安部の皆さんを見かける機会はそれほど多くはありません。しかし、四日市の海の平穏は正義仁愛に満ちた四日市海上保安部全員の活躍があつて保たれています。今一度海との付き合い方を考え、海を守ることにへの理解を深めてみてはどうでしょうか。